

研究だより



せらにし小学校研究部
令和2年 4月 2日
No. 1

今年度は、「学力フォローアップ校事業」3年目です。1年目、2年目で取り組んだことのまとめの年となります。この「研究だより」を通して、本校の研究の共通認識を図りたいと思います。よろしくお願いします。



まず、昨年度の授業研究からの学びと、今年度の取組について確認します。

「せらにし小学校の授業改善ポイント」

- ①児童が授業のゴールイメージをもっています。
- ②児童が、自分の考えをもち表現しようとします。
- ③児童が、授業で学んだことを表現します。

昨年度、教職員全員で考えたポイントです。これを意識した授業づくりをやっていきましょう。

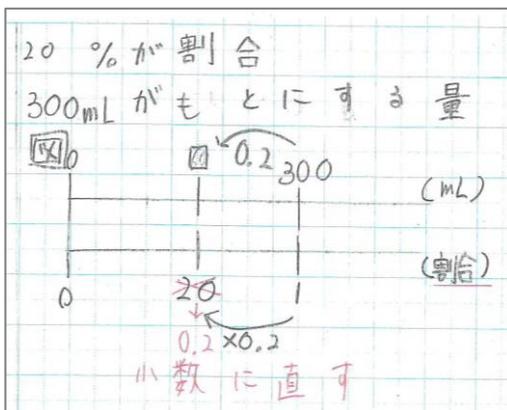
使う場面

- ①問題をイメージする場面
- ②数量の関係をつかむための場面
- ③説明するための場面

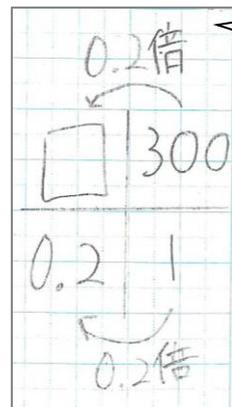
・“考えるためのツール”の活用

- | | |
|---------|---------------------------------|
| ①ブロック | 具体物で視覚的に |
| ②絵 | 絵に言葉や数を付け加える |
| ③○図 | |
| ④テープ図 | ①～③をテープで表現 |
| ⑤線分図 | 数量の関係を表す |
| ⑥数直線図 | |
| ⑦関係図 | 数量間の関係を矢印や言葉で表す |
| ⑧4マス関係表 | 縦と横の関係が同じになるように書き、比例関係で成り立っている表 |

児童一人一人に「つばきっ子のツール」を配布します。これを活用しながら、自分なりに考え、説明できる児童を育てていきましょう。



数直線図で表現



4マス関係表で表現

自分なりに「つばきっ子のツール」を使って考え、その考えを表現できるようにしていきます。

・算数科における主体的な学び（学習指導要領 算数編P322）
「算数科では、児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見出したりするなどの『主体的な学び』を実現することが求められる。」

・見通しが、主体性を持続する上で大事。→共有する部分を吟味する。

・「見通し」 思考方法の見通し 例) たてに見る, 横に見る
表現方法の見通し 例) 図・表を使う
結果の見通し 例) 40より大きくなりそう

・「練り上げ」の方向性

異なる場面での活用について考察する。→数字が変わった時に使えるか？

現実の生活への活用について考察する。→日常で使えるか？

状況に適した見方・考え方を選択する。

・今日の学習について「何が分かったのか」「授業を通して何が成長したのか」「どんな力が付いたのか」「身近なことで言うと今日の学習は何か」「今までの学習と～が同じ」「新たな疑問」など、振り返りを充実させていくこと。

→『せらにし小 学びの手引き』を一人一枚配布します。「ふりかえりのポイント」を参考にしてください。児童に、どのような振り返りができれば良いのか確認しておきましょう。



次は、今年度の取組です。まず、今年度の研究主題を確認しましょう。

研修主題『	の中で	を育む』
～「	」と「	」を通して～

本校が育成を目指す「主体的な学び」・・・児童が「なぜ?」「どうして?」と問いをもち、それらを解決するための見通しをもって課題解決に向けて粘り強く取り組み、学習の過程を振り返ることで次への意欲がわく学び。

☆学力フォローアップが目指すもの

「手立てが全体のものになって、学力があがった。」ということが目的。

☆「主体的な学び」

表現力を例にしてみると・・・

他者の説明を自分なりに理解し、「図に置き換えると」「日常の場面に置き換えると」と説明できる。

他者に説明する時に分かりやすくしようとする。

☆本校は「せらにし授業スタイル」を作成しています。授業の基本的な流れです。確認しておきましょう。

◎本校では、個への手立てとして「視覚化」「焦点化」「共有化」を次のように整理しています。

「視覚化」 見えないものを「見える化」し、児童のイメージをわきやすくさせる。
例) ICTの活用, 場面絵, 図や表・グラフ等, 問題提示の工夫
ヒントカード, 既習事項の掲示

「焦点化」 授業を「シンプル」にする。
例) せらにし授業スタイル めあての確認, ゴールイメージをもたせる

「共有化」 互いの考えを伝え合ったり, 確認させたりする。
「できる」児童には, 自分の意見を深めさせる。
理解に不安がある児童には, 自分の意見に足りない部分を補わせる。
例) キーワードの確認, ペア・グループトーク・集団での練り合い,
活動の視点の確認, 友達の考えを言わせる
電子黒板やまなボードの活用, まとめ, 振り返り

◎日頃の授業づくりで大切にしたいこと

・授業のねらい



どのように発問するか。
児童に何を書かせるか。

1時間の授業のねらいとゴールを設定し、ゴールに向かうために何を発問し、何を考えさせるのかを、わたしたち教師自身がおもっておくことは、授業を行う上で大事なことです。

本時のゴール

◎本校の課題について

・昨年度, 小学校と中学校の課題は, 共に, 「複数ある資料などからの情報の整理や内容把握, また, それを関連づけて表現すること」です。



資料の読み取り等をどのように指導していくか。



算数科だけでなく, 他の教科で資料を活用する際に, 児童に自分の考えを言わせたり, 書かせたりする時間を確保していきましょう。

例) 社会科では, 複数のグラフ等がある。日頃の授業から, 複数のグラフから読み取れることは何かを児童自身に考えさせていく。

☆今年度は、「関わりあい」を大事に授業づくりを進めていきます。

◎「対話」の在り方

- ・教材との対話，自己との対話，他者との対話。
- ・授業者が意図をもって対話場面を仕組むこと，それを児童にも示すこと。
例) 自分の考えを整理するためのペアトーク。
互いの考えを交流することで深めるためのグループトーク。
- ・まず，自分の考えを確実にもたせること。それは，決して“正解”をもたせることではなく，「自分はこう考えた。」「ここまで考えたけれど，この部分が分からない。」などの“考え”をもたせることであるべき。
- ・「教材との対話」「自己との対話」をするために，個への手立てを考えていく。
→個の実態・困り感に応じて，手立てを準備しておく。
※実態把握，教材分析が重要。
めあてにそった手立てであるべき。
※答えを求める手立てではなく，考えるための手立て。
ねらいが説明することであれば，説明させるための手立て。
- ・自力解決に時間をかける必要はない。集団での練り合いにしっかり時間をとっていくことが大事。

○算数科ノートの使い方について（別紙資料。算数の授業開きで確認する。）

★分からないことがあったらノートを振り返ってみるような子どもを育てたいと思います。教室に、「ノート名人」の掲示をしてください。学期末に各学年代表のものを廊下に掲示します。4月は，ノートの使い方が徹底するように声掛けをしていきましょう。



今年度も，授業研究前にシミュレーション授業を2回行います

1回目・・・1回目のシミュレーションまでに，学習指導案を作成してください。本時が単元の中でどのような位置付けとなるのか，何を身に付けさせたいのかねらいを明確にしておいてください。そして，そのねらいを達成するために，「児童の実態がこうであるから，このような手立てが考えられる」ということを説明します。その後，職員全員で，つまずきや手立てについて考えていくという流れにします。「授業をどのように流そうか。」という相談タイムではなく，めあてを達成するための手立てを考える1回目にしたと思います。

2回目・・・1回目を受けて，手立て等教材を2回目までに準備してください。それを使って，集団での練り合いの部分をシミュレーションします。

1年目，2年目に使った手立てをぜひ活用していきましょう。その際，「研究推進のまとめ」を参考にしてください。年間指導計画を見て，授業研と11月の公開研で取り上げる単元を考えておきましょう。